



R.I. District2610 . ROTARY CLUB OF UOZU

魚津ロータリークラブ 会報誌

2007 - 2008 年度 RI 会長 ウィルフォードJ.ウィルキンソン
魚津 R.C 会長 谷川 文紹

2008年 5月 9日

第 2630回 例会報告

ゲスト並びにビジター紹介

ゲスト 鹿熊 正一 様 (富山県議会議員) 米山奨学生 リ ホー 君
ビジター 朝倉 ガバナー補佐

誕生祝 なし

朝倉 ガバナー補佐



過日のガバナー補佐会議において、討議されたことの報告と要請です。

1. 年度末における退会者の防止と会員拡大の協力を願う。
2. ローター財団への寄付の協力を願う。

新川青年会議所

6月1日に吉島小学校で行う“少年わんぱく相撲”への協力を願う。

米山奨学生 リ ホー 君



中国から留学生として日本へ来て富山大学に在学中です。来日して3年になります。経済的なことで苦労しましたが、米山奨学金を受けることで大変に助かっており、ありがとうございました。

会長挨拶

寒暖の差が激しくて体調には留意してください。ガバナー補佐には残り2ヶ月間大変でしょうが頑張ってください。報告事業として、4月の釜山釜一 RC 訪問の際に、会長同士の記念品交換を行いました。先方から戴いた記念品は”由緒ある耳飾りのミニチア品“で、当方からは”魚津の屋気楼などの写真をパネル化して額にしたもの“を渡しました。

幹事報告

ガバナー事務所 ・ 会員増強についてのお祝い ・ 米山奨学生クラブ訪問の依頼

入善町長 入善高波被害義援金のお礼

全日本女子野球連盟 第22回大会協賛のお願い

魚津市 暴力追放推進協議会総会の開催について

地区協議会への出席依頼 例会終了後に理事会を行います。

出席報告

27名 75.00% 第2628回 修正なし

ニコニコボックス

朝倉ガバナー補佐 例会出席と協力要請で

清水 修三 君 本日付で20年間努めました。魚津市議員を退職しました。長い期間の皆様からのご支援に感謝した。

委員会報告

大村会長エレクト 次年度の委員会編成表の説明



国政が混迷しており、後期高齢者医療制度の問題やガソリン問題など県政より進言すべきことが多々あります。その他に日銀総裁問題・来年 6 月より始まる裁判員制度問題もあります。

県政について

1. 人口問題 現在 110 万人前後の県人口が 2030 年には 92 万人前後になるだろうと予測されています。人口減少問題を解決する方策として出生率の向上、また毎年 3 千人位の若者が県外へ流失していることを解決する手段として魅力ある企業などの誘致を促進すべきである。現在 32 件の企業誘致に成功しているが今後も続けたい
2. 北陸新幹線問題 2014 年開通予定の北陸新幹線は都市と地方格差の問題で建設費用 6 千億円の 3 分の 1 にあたる約 2 千億円の富山県負担といった問題がある。東海道・東北(盛岡まで)・上越新幹線などは地元負担がありませんでしたが、北陸新幹線では地元負担があるといった矛盾もあります。
3. 並行在来線問題 新幹線開通と同時に第 3 セクター運営となります。当然赤字経営が予測される。現在の北陸本線は物流の要として貨物列車が 1 日約 40 本走っており、今後は JR 貨物(株)との協議事項である
4. 観光事業問題 県内への観光客の出入りによる経済波及効果は観光消費額の約 1.5 倍あると予測されている。平成 18 年度は 2681 万人ほどでその消費額は 1889 億円でした。この金額は富山県予算の 3 分の 1 にあたります。特に滞在型観光にすべきであると考えます。
5. レジ袋問題 富山県は 4 月 1 日より全国に先駆けてレジ袋の有料化に取り組み、このことは全国ニュースとして取り上げられた。これは県内スーパー等の 65%・31 社が取り組んでいます。
6. 東海北陸道全線開通問題 7 月の全線開通によって名古屋 富山間が 3 時間圏内となる。問題点として中京圏からの流入観光客は 42 万人ほど増加すると予測され、この観光客をいかに新川方面に取り込めるかが今後の課題である。
7. 富山伏木港の活用問題 日本海を挟んでロシア・中国などへの物流を含めた航路として日本海側では、唯一富山伏木港のみである。この強みを今後生かして、現在すでに稼働している企業もあるが、将来的にはシベリヤ鉄道との連携にて大企業の県内企業誘致や大陸側での企業誘致などに努めたい。
8. 県内社会資本の整備問題 県内の道路・架橋で新設といったことではなく、いかに維持管理してゆくかが問題である。築 50 年の架橋は 40 箇所あり、今後 20 年以内にその架け替え工事を行わなければならない。その予算の確保といったことが問題である。
9. 教育文化問題 昨今の殺傷事件などは危惧される問題であり、“ひざまずく心・宗教心”といったことの欠如であり、命の尊さを軽んじている傾向にあることは残念である。学校のみその問題点の解決を求めることは無理であり、やはり家庭の問題点として取り組むべきことである。
10. 高校生の意識問題 将来の世代を受け継ぐ高校生の他国との比較においても、そのチャレンジ精神の欠如に問題点がある。